

全学向日本語プログラム 2010年度

李 澤 熊

全学向日本語プログラムは、名古屋大学に在籍する留学生(大学院生、研究生など)、客員研究員、外国人教師などを対象に、日常生活や大学での研究生生活に必要とされる日本語運用能力の養成を目指して開講されている。

2010年度は昨年度に引き続き、日本語プログラムを見直し、効率を図るとともに、全学留学生を対象とする全学向日本語講座の拡充計画を立案し、実施した。

1. 2010年度の概要

- 1) 2010年度は、前期・後期に「集中コース（IJ コース）」と「標準コース（SJ コース）」を開講し、アカルト授業として「オンライン日本語コース」「漢字コース」「入門講義」「ビジネス日本語コース」を開講した。なお、「漢字コース」と「ビジネス日本語コース」は、それぞれ「漢字2000」、「ビジネス日本語Ⅲ」を新たに設け、さらに充実を図った。
- 集中コースは、短期交換留学生の受講が多いということもあり、週20時間 4 レベル 5 クラスを設けた。なお、集中コースはすべて午前の開講となった。
- 標準コースは、7 レベル 9 クラスを設けた。初級 I レベルについては、昨年に引き続き前後期共に 2 ク

ラス体制をとった。なお、標準コースはすべて午後の開講となった。

- 2) 例年と同様、初級Ⅱ以上を希望する受講者を対象にクラス分けテストを実施し、日本語能力レベルに応じたクラス編成をした。なお、今年度もクラス分けテストの会場を2つ設け、上級レベルを希望する者については、別途にテストを実施した。
- 3) 各クラスにおいて、出席および成績の管理を行い、授業終了時に出席率および成績から合格者を発表し、合格者は次期進級する際クラス分けテストを免除している。再履修者についても同様である。ただし、上級Ⅰ、Ⅱにおける再履修者は定員を超える申し込みがあった場合、受講を制限することになっている。
- 4) 全学向日本語プログラムは、基本的には単位取得をする授業ではないが、短期交換留学生に関しては、別途に単位認定基準を設け、単位認定を行った。
- 5) 「学生の出入りが激しい」という問題点を解消するために、今年度からは登録の時に指導教員による「受講承諾書」の提出を義務化した。
- 6) 昨年度に引き続き、FD 活動の一環として学生によるコース評価をレベル・科目別に行った。

2. 期間と内容

- 1) 前期開講期間：2010年4月12日(月)～7月26日(月) 14週間
- 2) 後期開講期間：2010年10月12日(火)～2011年2月7日(火) 14週間
- 3) 開講クラスと内容：

コース科目	レベル クラス数	目 標	教 材
標準コース (standard)	初級Ⅰ SJ101	日本語がほとんどわからない学生を対象に、日本語文法の初歩的な知識を与えると同時に日常生活に必要な話しことばの運用能力を育てる。(漢字100字、単語数800語)	<i>A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vol. 1 & CD</i>
	初級Ⅱ SJ102	初級Ⅰ修了程度のレベルの学生を対象に、さらに基礎日本語の知識を与えると同時に日常生活に必要な話しことばの運用能力を育てる。(漢字150字、単語数900語)	<i>A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vol. 2 & CD</i>
	初中級 SJ200	初級Ⅰ、Ⅱで学んだ文法事項の運用練習を行うとともに、中級レベルで必要となる漢字力、読解力を含め、日本語運用能力の基礎を固める。(漢字200字、単語数1000語)	留学生センター開発教材

コース科目	レベル クラス数	目 標	教 材
標準コース (standard)	中級 I SJ201	初中級修了程度のレベルの学生を対象に、日本語の文法を復習しつつ、4技能全般の運用能力を高める。(漢字300字、単語数1200語)	『現代日本語コース中級 I』
	中級 II SJ202	中級 I 修了程度のレベルの学生を対象に、日本語の文法を復習しつつ、大学での勉学に必要な日本語能力の基礎を固める。(漢字400字、単語数2000語)	『現代日本語コース中級 II』
	中上級 SJ300	中級 I, II で学んだ学習項目を実際の場面で使えるよう運用練習を行い、上級レベルの日本語学習の基礎を固める。(漢字500字、単語数3000語)	・留学生センター開発教材 ・『日本語上級読解』アルク
	上級 SJ301	中上級修了程度の学生を対象に、大学での研究や勉学に必要な口頭表現、文章表現の能力を養う。(漢字800字、単語数4000語)	留学生センター開発教材
集中コース (intensive)	初級 I IJ111	日本語がほとんどわからない学生を対象に、日本語文法の初歩的な知識を与えるとともに日常生活に必要な話しことばの運用能力を育てる。(漢字150字、単語数800語)	<i>A Course in Modern Japanese, [Revised edition] Vols. 1, 2 & CD</i>
	初級 II IJ112	標準コース初級 I 修了程度の学生を対象に、日本語文法の基礎を固め、日常生活だけでなく勉学に必要な基礎的日本語運用能力を養う。(漢字250字、単語数1000語)	<i>A Course in Modern Japanese, Vos. 2 & CD</i> , 作成教材
	中級 I IJ211	集中コース初級 I または標準コース初級 II 修了程度の学生を対象に、日本語の文法を復習しつつ、4技能全般の運用能力を高める。(漢字300字、単語数1200語)	『現代日本語コース中級 I』および留学生センター作成教材
	中級 II IJ212	集中コース初級 II または標準コース初中級修了程度の学生を対象に、4技能全般の運用能力を高め、研究に必要な日本語能力の基礎を固める。(漢字400字、単語数2000語)	『現代日本語コース中級 I・II』
漢字コース (kanji)	漢字1000 KJ1000	漢字300字程度を学習した学生を対象に、日本語能力試験 N3-N2程度の漢字1000字を目標に学習する。	『漢字マスター Vol. 3 2級漢字1000』
	漢字2000 KJ2000	漢字1000字程度を学習した学生を対象に、日本語能力試験 N2の上から N1程度の漢字約2000字およびその語彙を学習する。	『日本語学習のための よく使う順漢字2100』
入門講義 (introductory)	次の専門分野を日本語でやさしく解説する講義形式の授業である。日本語運用能力を高めるとともに、日本理解を助ける科目である。標準コース中上級レベル以上の日本語能力が受講資格である。		
	国際関係論 I・II IR200	I：グローバリゼーションは開かれた社会・経済を推進し、商品、思想などが縦横無尽に世界を駆け抜ける。さらに、ネットワーク社会の出現は人権やアイデンティティー意識の高揚をもたらしている。しかしながら、グローバリゼーションの行く末を案ずる声も大きくなってきている。グローバリゼーションをめぐる賛否両論を紹介する。 II：グローバリゼーションをキーワードとして、いくつかの認識方法を手がかりに、現代国際環境の変容を見る。	講読文献などは授業中に適宜指示する。
	日本文化論 I・II JC200	I：この講義では、日本の家族や学校をめぐる最近の問題を取りあげ、受講者の出身国の事例と比較しながら、日本の社会や文化の特徴を議論していく。取りあげるテーマは、夫婦別姓、国際結婚、いじめ、不登校、フリーターなど。 II：日本の社会や文化の特徴をより深く理解するために、韓国を比較の対象として取りあげ、東アジアにおける「近代」(西洋文明との出会い)の意味を考える。	講読文献などは授業中に適宜指示する。
	言語学 I・II GL200	I：主に現代日本語を素材として、言語学の基礎を学ぶ。取り上げるテーマは、言語学の基本的な考え方、人間の言葉の一般的特徴、言葉の意味(意味論)、言葉と社会(社会言語学)、世界の言語と日本語(言語類型論)である。 II：言語学の一分野である意味論(認知意味論を含む)について学ぶ。特に、現代日本語を素材として、類義表現・多義表現などの分析方法を身につけることを目指す。	講読文献などは授業中に適宜指示する。

コース科目	レベル クラス数	目 標	教 材
入門講義 (introductory)	日本語学Ⅰ・Ⅱ JL200	Ⅰ：主に日本語教育で問題となる文法項目を取りあげ、 整理・検討することによって、文法の基本的知識を身に 付けることを目標とする。取りあげるテーマは品詞、ボ イス、テンス、人称、活用等 Ⅱ：主に日本語教育で問題となる文法項目を取りあげ、 整理・検討することによって、文法の基本的知識を身に 付けることを目標とする。	講読文献などは授業中に適宜指示 する。
オンライン・ 日本語コース	・中上級読解作 文 OL300 ・オンライン漢字 OLkj	中級レベルを修了した学習者を対象に、400字～600字程 度の文章の理解とその文章の要約や関連作文を課し、文 章表現能力を養う。 初中上級レベルの学習を修了した学習者を対象とした漢 字のクラスを開講している。毎週1回オフィスアワー を開設する。	Moodle 版日本語教材
ビジネス日本語 Business	ビジネス日本語 Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ BJ400	将来、日本の企業に就職を希望する人はもちろん、日本 人のビジネスコミュニケーションに対する理解を深めた い留学生を対象とし、日本のビジネス・マナー及びビジ ネスで用いられる日本語表現を身につける。	『ビジネスのための日本語・初中 級』スリーエーネットワーク など

(入門講義科目の「Ⅰ」は秋学期に、「Ⅱ」は春学期に開講する。)

3. 受講生数

1) 標準コース

	前 期			後 期	
	登録者数	修了者数		登録者数	修了者数
初級Ⅰ（2クラス）	40	33	初級Ⅰ	71	51
初級Ⅱ	30	23	初級Ⅱ	26	21
初中級	35	24	初中級	37	31
中級Ⅰ	24	20	中級Ⅰ	32	20
中級Ⅱ	47	33	中級Ⅱ	36	25
中上級	39	31	中上級	37	24
上級	41	26	上級	59	33
計	256	190	計	298	205

2) 集中コース

	前 期			後 期	
	登録者数	修了者数		登録者数	修了者数
初級Ⅰ・Ⅱ（2クラス）	15	13	初級Ⅰ・Ⅱ（2クラス）	33	30
初級Ⅱ・初中級	11	10	初級Ⅱ・初中級	15	14
初中級・中級Ⅰ（2クラス）	22	19	初中級・中級Ⅰ（2クラス）	36	32
中級Ⅰ・Ⅱ	22	17	中級Ⅰ・Ⅱ	29	22
計	70	59	計	113	98

4. 学生によるコース評価

昨年度と同様に授業改善と教授能力の向上を図るために、前期と後期に受講者を対象に、コース内容に関するアンケートを実施した。回答者数(短期交換留学生を含む)は前期と後期、それぞれ139名と150名である。

アンケートの内容はレベルによって異なるが、各レベルに共通して尋ねた質問のうち3つの項目について報告する。

質問1：教材は役に立ったと思いますか。

質問2：勉強したことがよく理解できたと思いますか。

前期

	Q1	Q2	合計
そう思う	102	78	65%
どちらかといえば「はい」	17	33	18%
どちらとも言えない	16	18	12%
どちらかといえば「いいえ」	3	7	4%
そう思わない	1	3	1%
回答者合計	139	139	100%

後期

	Q1	Q2	合計
そう思う	104	65	56%
どちらかといえば「はい」	23	63	29%
どちらとも言えない	11	15	9%
どちらかといえば「いいえ」	9	6	5%
そう思わない	3	1	1%
回答者合計	150	150	100%

以上の結果から分かるように、全般的に良好な評価結果が得られた。ただ、受講者によっては「大学院等の入試（例えば、面接試験）に役立つ項目も取り上げてほしい」、「論文やレポートの書き方をもっと学びたい」「政治・国際問題など、授業で取り上げるテーマの領域をもっと広げてほしい」というような指摘もあった。今後、このようなニーズに対応していくために、さらに工夫が必要であろう。

質問3：日本語の授業について意見やアドバイスがあったら書いてください。

この質問には様々な回答があったが、全般的に寛大な評価が多かった。しかし、中には以下のような要望も出ており、今後さらなるプログラムの改善に努める必要があると感じた。

- ・「専門の授業と重なって、とれない科目があった」
- ・「クラス人数が多い」
- ・「E-メールの書き方など、実用的なことをもっと取り上げてほしい」

5. 今後の課題

以上のように、2010年度は昨年度の実施結果を踏まえ、さらにプログラムの充実を図ってきた。しかし、留学生30万人計画やグローバル30英語コースの開始など、国際交流のさらなる進展に伴い、今後日本語教育へのニーズはさらに多様化するものと予想される。

現在、全学向け日本語プログラムがかかえている問題として、次のような点があげられる。

- 1) 現在の時間割編成では、短期交換留学生の増加や2011年後期からスタートする「グローバル30英語コース」に十分な対応ができない。
- 2) IJ コース（集中コース）では、14週間で教科書を2冊消化しなければならず、その学習量にかなり負担を感じる学習者が多い。例えばIJ111を修了（合格）しても、学習内容が十分身につけていない学生が多く見受けられる（多くの学生が次のレベル（IJ211）で勉強できるほどの力がついていない）。

そこで留学生センターでは、来年度から既存の日本語プログラムを見直し、さらに効率を図る予定である。まず、1) に対応するために、標準コース（の一部）の開講時間帯を午前に変更する。そして、2) の改善策として、全学向け日本語プログラムのレベルの見直しを進める。特に、初級1レベル～中級2レベル（IJ コース全体、SJ101～SJ202）の見直しが必要なため、ワーキンググループを設置し、検討を進める。